

ART患者の子宮内フローラ90%以上の 妊娠率とサプリメントの有効性について

※年齢は考慮していない

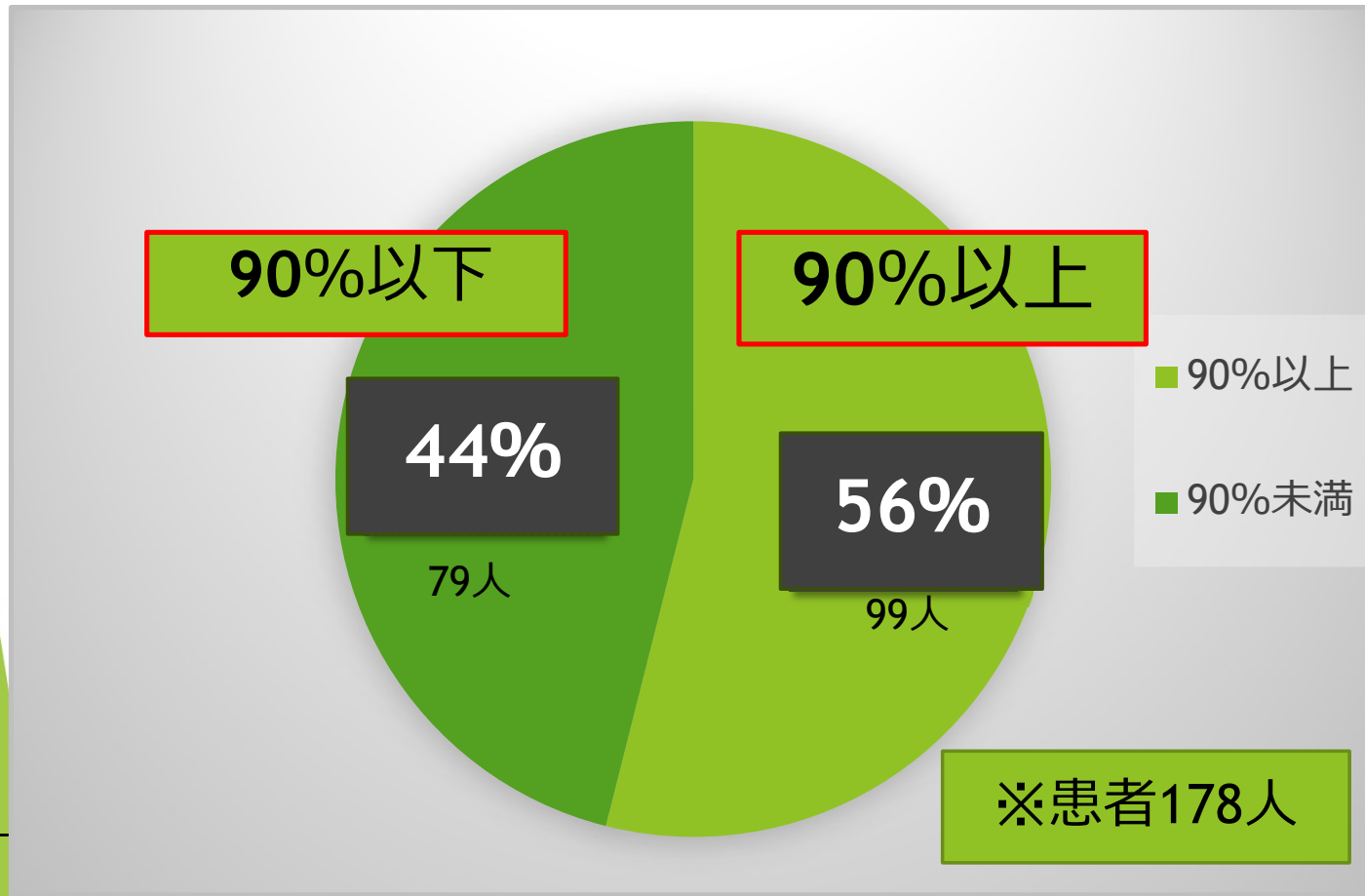
子宮内フローラ検査とは

膣または子宮内に存在する善玉菌・ラクトバチルス菌属の割合を調べる検査

善玉菌・ラクトバチルス菌の割合

常在菌、細菌性膣症の原因菌の存在と割合

ラクトバチルス菌90%の割合

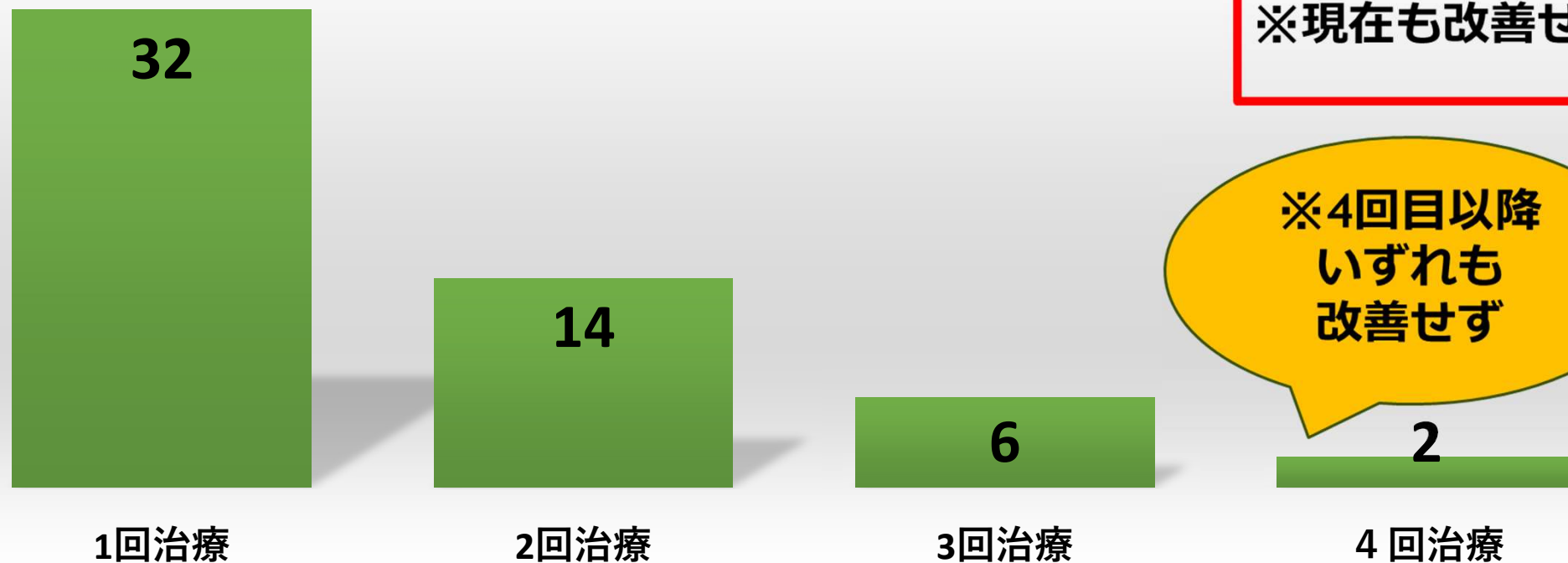


者患の約2人に1人が
ラクトバチルス菌
90%未満である

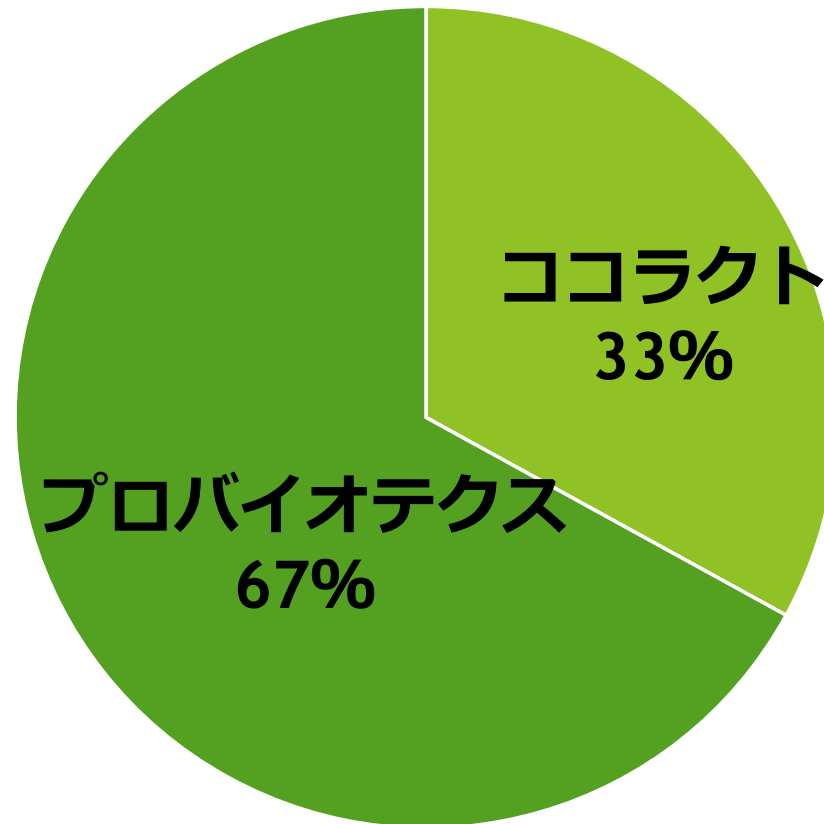
子宮内フローラ検査90%以上になるまでの 治療回数

子宮内フローラ検査実施回数

54/79人

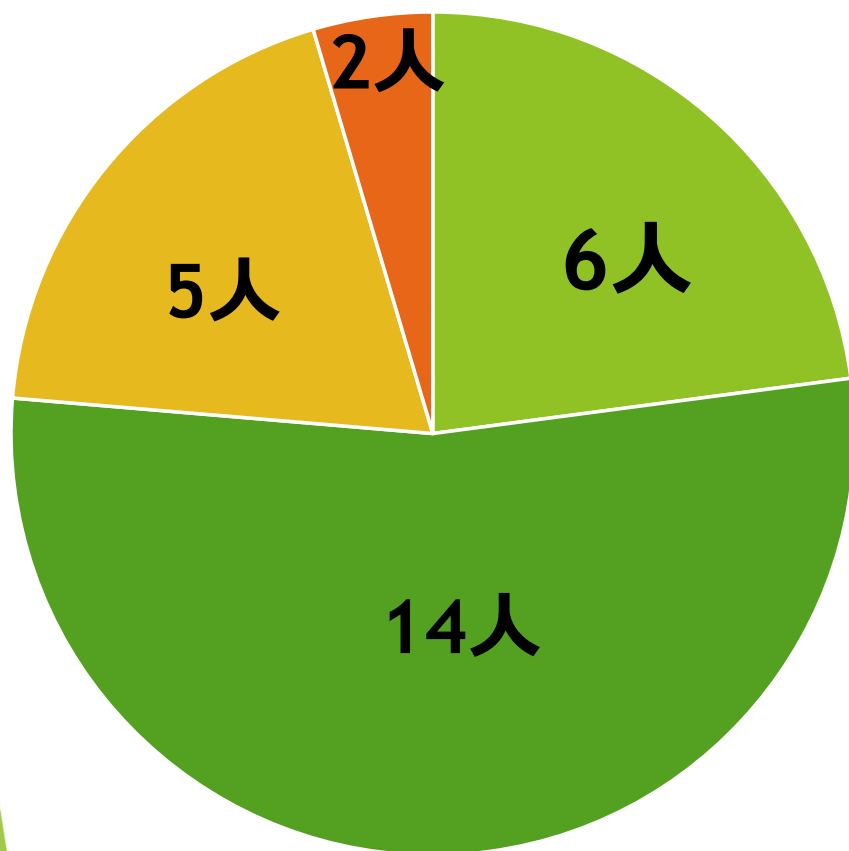


ココラクト・プロバイオティクスを使用した時の改善率



■ココラクト ■プロバイオテクス

治療しなかった患者と治療しても改善しなかった患者の内訳

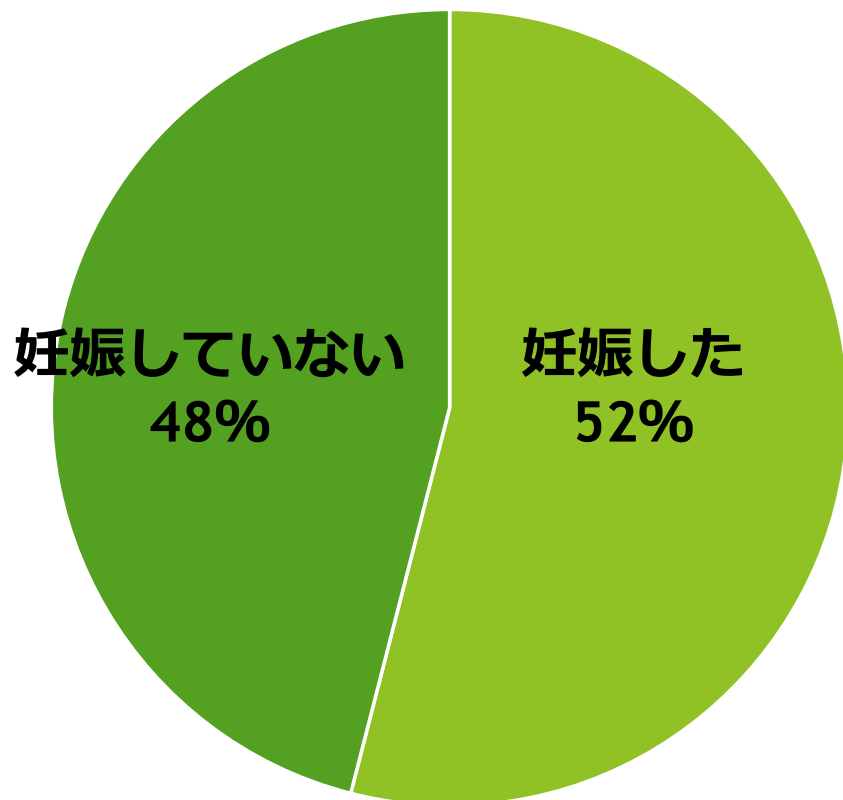


- 子宮内フローラ80%以上で再検査しなかった人
- 子宮内フローラ90%未満だったが、治療しなかった人
- 子宮内フローラ90%未満であったが、抗生剤治療後、プロバイオテクスを使用し再検査前に自然妊娠した人
- サプリメント使用しても、改善できなかった人

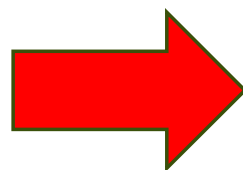
※その他の善玉菌（ビフィドバクテリウム）が90%以上のため、再検しなかった人

子宮内フローラ90%以上の妊娠率

子宮内フローラ後妊娠率

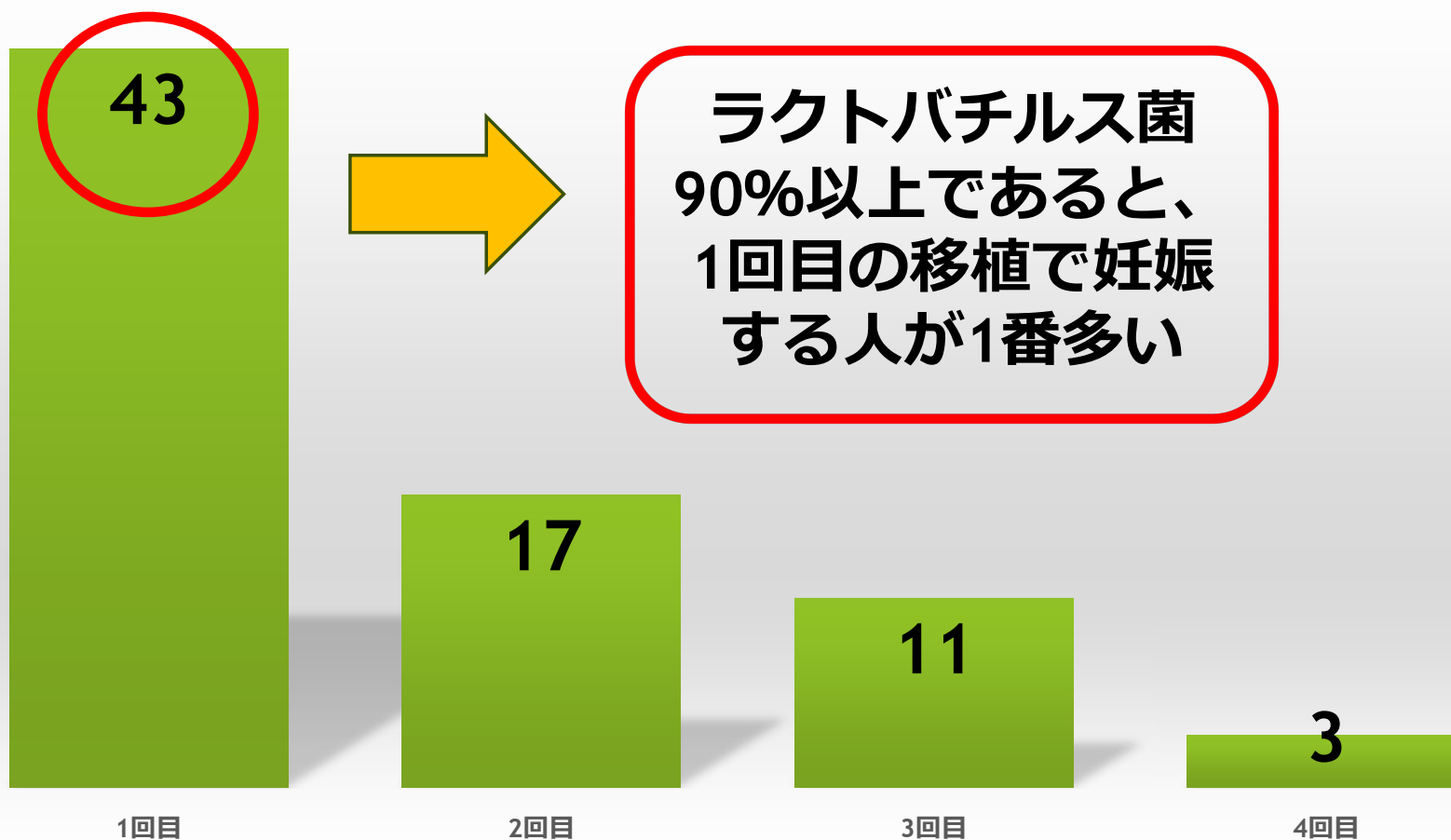


■ 妊娠した ■ 妊娠していない



2人に1人は
妊娠してい
る!!!

妊娠するまでの移植回数



※74名/162名

移植する前に自然妊娠した患者

A氏：34歳

- 来院時不妊期間5ヶ月
- HSG行い、右卵管通過性良好、左卵管通過性不良。左卵管癒着疑いあり。
- タイミング法6ヶ月行い、ARTに進む
- 採卵後にフローラ検査実施。ラクトバチルス菌56%であり、抗生剤内服治療後、プロバイオティクス1周期使用。
- 翌月再検査し問題なし。その周期に自然妊娠した。

B氏：33歳

- 来院時不妊期間3か月
- HSG行い、左右卵管通過性不良。左卵管癒着疑いあり
 - タイミング法1周期行い、ARTに進む
- 採卵後にフローラ検査実施。ラクトバチルス菌52%であり、抗生剤内服治療、プロバイオティクス使用し、再検、再再検する。
- 3回目の検査でラクトバチルス菌99%になり、その周期に自然妊娠した。

子宮内フローラ検査後の妊娠率まとめ

- ▶ ラクトバチルス菌を補うためには、ココラクトよりもプロバイオティクスの方が改善率が高い傾向にある。そのためプロバイオティクスを第一選択として患者にすすめていく。
- ▶ ラクトバチルス菌90%以下の患者は再検査3回目以内までは改善するが、4回目以降は何度再検査を実施しても改善することは難しい。また4回目以降実施しても、逆にラクトバチルス菌が大幅に低下している患者も居る。さらに改善せずに何回も検査することで、採卵から移植間が最大で1年以上かかる患者がいる。
- ▶ ラクトバチルス菌90%以下であっても継続率は不明（卒業はしている）だが妊娠している患者もいる。
- ▶ ラクトバチルス菌90%以上ある患者は移植して2人に1人は妊娠している。※年齢、胚のグレードは関係なし。
- ▶ 今までタイミングをとり、妊娠しなかった患者でも、採卵し移植間にラクトバチルス菌90%以上にした患者は自然妊娠している。（4名）
- ▶ 子宮内フローラ検査の必要性があることを、今後も引き続き患者に説明していく。

ご清聴ありがとうございました。